

# 各部署交渉

## ◆農林水産部

農業漁業共同利用機械設備更新について、農業近代化資金等の融資制度の活用となつてはいるが、補助事業として活用できることはやっとなしと要求した。各支部から、磯根漁場再生事業や採貝者の漁業権について、今後も事業を継続して実施できるようにと、いくと方向性が示された。さらに、農業用水路、溜池・農業施設の育成など部で厳しい実態があるため、早急に対応してもらおう、要求した。

## ◆県土整備部

和歌山市内支部については、市町村への指導を再度お願いするとともに、現場視察へは県も同行するよう要求した。詳細の話し合いについては、各支部と和歌山市との「まちづくり協議会」でおこなうことを確認した。

伊都振興局管内の支部要求では、市町村交渉、振興局交渉を経て対県交渉がおこなわれているにもかかわらず、振興局交渉での回答とほぼ同じであり、その後のとおりくみ姿勢がみられなかったことから、紛糾し、参加者からの厳しい意見に担当課長が回答に詰まる場面もあった。伊都管内の支部要求については、県に現

場視察同行を依頼、2次交渉までに再度話し合いをもつことを確認した。

## ◆環境生活部

女性、青年、子ども会、NPO活動など、県民の生活に直接かかわった施策が多いが、部落と直接かかわっているのは子ども会活動だけではないかと指摘した。女性の働く環境が整備されていないことについて、実態把握したうえで施策を講じないと解決には結びつかないことから、05年に被差別部落女性アンケート報告書と11年部落青年の実態調査を参考に、課題解決にむけた施策の実施を求めた。

## ◆福祉保健部

福祉を取り巻く状況は、「障害者差別解消法」や「介護保険制度」「生活保護制度」など、差別的なバッシングのなかで、悪くなる可能性がある。そうした意味で大事な交渉であり、しっかりとしたとくみ要求をしていくとあいさつした。

中川伸児・福祉保健部長から「和歌山市内で起きた乳児死亡事件について、おわびしたい。人権尊重の社会作り条例に基づき、さまざまな施策をすすめてきた。実態調査でも課題が指摘されており、人権につ

て深いかわりがある。で、福祉行政の推進に努める」とあいさつを受けた。かつらぎ町の問題について、住民の意見を聞き9月議会で廃止になった。他の隣保館で廃止にむけた動きは聞いていない。保育にかかわって、同和保育基本方針を堅持しながらすすめるのか、幼保一元化についての考え方について、「保育に欠ける」子どもの親や親の成育環境、生活実態などをふまえた対応をしていくのか3点について、県から基本的な考えを求めた。くわしくは2次交渉でおこなう。

## ◆商工観光労働部

就職促進相談員による巡回相談や各種職業訓練などを実施しているが、就職に結びつかず、青年が地元から流出している。共同作業所は、これまでの状況調査をもとに、長期的なとりくみ（新商品開発、業務内容の見直し、地域での物産展など）をすすめていくことで、経営改善・雇用創出につなげてほしいと要求した。また、ハローワークが実施している自動車運転免許・理容師免許取得のための事業について、あまり周知されていないことをふまえて、2次交渉で詳細な現状報告を求めた。

## ◆教育委員会

学力にかかわる課題を解決するために、組織的な体制でとりくむ必要がある

と深いかわりがある。で、福祉行政の推進に努める」とあいさつを受けた。かつらぎ町の問題について、住民の意見を聞き9月議会で廃止になった。他の隣保館で廃止にむけた動きは聞いていない。保育にかかわって、同和保育基本方針を堅持しながらすすめるのか、幼保一元化についての考え方について、「保育に欠ける」子どもの親や親の成育環境、生活実態などをふまえた対応をしていくのか3点について、県から基本的な考えを求めた。くわしくは2次交渉でおこなう。

# 実践交流と研究活動を第47回全研



講演する大谷昭宏さん

部落解放研究第47回全国集会を11月6日～8日、香川県高松市でひらき、和歌山から73人が参加した。

## ◆就職促進相談員による巡回相談や各種職業訓練などを実施しているが、就職に結びつかず、青年が地元から流出している。共同作業所は、これまでの状況調査をもとに、長期的なとりくみ（新商品開発、業務内容の見直し、地域での物産展など）をすすめていくことで、経営改善・雇用創出につなげてほしいと要求した。

吾・香川県連顧問から「香川県における部落解放運動の軌跡と課題」、記念講演では大谷昭宏・ジャーナリストから「マスコミと人権」について、自身が担当する新聞コラムに「部落差別に悩む自殺未遂をした」との読者からの手紙が届き「こんなおろかなことが許されていいか」と部落問題にかかわるきっかけになったと話された。

2日目は、1～7の分科会が各会場でおこなわれた。フィールドワークについては、「国立療養所大島青松園（ハンセン病施設）」のフィールドワークが各会場でおこなわれた。

最終日、山崎公士・神奈川大学教授による「障害

# えん罪50年！いまこそ開示証拠と事実調べを！ 狭山市民集會

10月31日、東京・日比谷野外音楽堂で狭山事件の再審を求める市民集會がひらかれ、和歌山から46人、全国から3千人が参加した。狭山弁護団を代表して中山武敏・主任弁護人が、開示証拠でさらに新証拠をつくり、再審開始のため全力で闘うと訴えた。石川一雄・早智子さんは「きつかけさえあれば人は変わる。そのきつかけになるものが映画 SAYAMA みえなの声が司法を動かす。どうか多くの人に狭山事件を伝えていただきたい」と決意と大きな支援を呼びかけた。

閉会あいさつで組坂繁之・中央執行委員長は「三者協議も15回目を終え、来年には判断が下されるだろう。再審開始を勝ちとるために、23狭山デーや狭山パネル展、映画「SAYAMA」上映運動など推しすすめて」と呼びかけた。

最後に、再審開始を求める集會アピールを参加者全体の拍手で採択され狭山市民集會を終えた。



全国から3000人が結集した

## 今後の日程

(12月)

- 12 / 20 狭山ピラ統一行動
- 12 / 20 2次交渉（環境生活部、教育委員会・自治会館）  
（農林水産部、県土整備部・書道資料）
- 12 / 20 障がい者部会
- 12 / 24 2次交渉  
（商工観光労働部、福祉保健部・東急イン）  
（総務部、企画部・書道資料館）
- 12 / 26 全国住環境対策関係部長会議、第2回国土交通省交渉（東京）
- 12 / 27 仕事納め

## 思いを語り合う

識字経験交流会

11月16日～17日、岡山市アークホテルで部落解放第15回全国識字経験交流会がひらかれ、県連から4人、全国の識字学級生など83人が参加した。

全体集會では岸田章子・中央執行委員長が開会のあいさつをおこない、基調報告を池田清郎・中央教育文化運動部副部長がおこなった。

「全国調査から考える識字の課題」と題した特別報告では、大阪教育大学教授・森実さんと日之出よみかき教室の菅原智恵美さんが報告をおこなった。

全体集會終了後は、4つの分科会にわかれ、それぞれの思いを語り合い交流を深めた。

## 支局からのお知らせ



お気軽にお電話を！

和歌山支局では、各支部でのとりくみを積極的に紹介していきたいと思ひます。支部活動や子ども会活動など、支局までお知らせいただければ、取材に走ります。もちろん、投稿記事も大歓迎！写真を添えて支局までお送り下さい。（発送先）〒640-8314 和歌山市神前405-3 部落解放同盟県連合会内 解放新聞和歌山支局宛